

■会長代行／加藤 明博 ■幹事／川村 総一郎

◆司会＝五味 武嗣 SAA

◆ゲストビジター＝本日はいらっしゃいません

◆出席報告

本日	58.0%	21名欠席
前回訂正	82.0%	9名欠席

◆ラッキーナンバー＝No.4 岩波寿亮君

◆ニコニコボックス＝●加藤明博君・川村総一郎君＝本日の例会は会員卓話です。吉越会員よりしくをお願いします。

●宮坂康弘君＝本年初参加です。私も年男の一員として飛躍できる年になるよう頑張ります。本年もよりしくをお願いします。●吉越潔君＝本日卓話よりしくをお願いします。

●岩波寿亮君＝ラッキーナンバーに当たって。

◆会長告知・加藤明博君＝どの国や地域に於いても、言葉と文化の関係は密接だと思います。日本語にも、日本ならではの伝統や風土、価値観、美意識が反映されていると思います。そしてそれは、日本語の美しさとして、時に私たちの心を震わせることもあります。今日は日本語の美しさについてお話をさせていただきます。世界で一番耳に聞き心地がよい言葉はよくフランス語だと言われているようですが、私は日本語ほど世界で美しい言葉は無いと思っています。以前お話をさせて頂いた、「有難う」を始め沢山の美しい言葉がこの日本にはあります。例えば「尊い」、私はこの「尊い」と言う言葉を日常で使います。昨日も朝食の味噌汁に私の大好きな茗荷が沢山はいってあり、朝から尊いものを頂いたねと、家の者に声をかけました。人から何か頂戴した際にもこの様な尊い物を頂戴してありがとうと私は言います。又私が好きな言葉の中に「黄昏れる」があります。先日も夕方の雨上がりに家で一人でお酒を飲みながら、あ～俺今黄昏れてるなどと思い、しみじみとお酒を飲みました。また、月一つ取ってみても、十五夜の月、十六夜の月、上弦の月、名月、朧月等と沢山あり、雨を一つ取ってみても、雷雨、霧雨、涙雨、春雨、小糠雨などと沢山の表現の仕方があります。これは日本が縦に長く四季というものがある事が関係していますが、それだけではなく日本人が言葉というものを非常に大切にしていたことによるものだと思います。しかしながら現在では、スマホという便利なものが出来、会話でもなく、手紙でもない、メールと言ったツールが出来た事により、この様な情緒のある言葉が失われようとしています。今の若い方に、人としての所作とか、人情などと言っても恐らく理解できなのではないかと思えます。私は若い頃大変貧しい思いをしていた時期がありました。昔、友人と小銭を出し合い、その小銭を麻の袋に入れて、飲み屋さんに行きその小銭をカウンターに出してお勘定をお願いしたところ、そんなお金は受け取れない、出世払いでよいと言われたことがありました。私は出世が遅かった為、結局支払いが出来ませんでした。昔はこの様な人情味のある方が沢山おられたような気がします。又四季により表情を変える雲などの動きを眺め季節を感じる事も無く、道を歩く時も、

レストランでも下を俯いて終日スマホを眺めている若い方達。広辞苑に載っていない独自の言葉で会話をする若者。日本語の美しさの背景には、古来より自己主張を押さえ、相手と協調する事を好む性質や、相手に配慮しながら敬い、相手の気持ちや察する民族性などが深く関係しているのではないかと思います。この美しい季節のある日本語を私たちの世代から次世代へと確実に繋げていかなければならない責任があるような気がします。

◆幹事報告・川村総一郎君＝①本日の例会はクラブフォーラム「新会員卓話」です。卓話いただく吉越会員宜しくお願ひ致します。②先般開催された第6回通常理事会の決定事項をご報告いたします。1点は、2月の例会開催方法です。2月の例会開催方法は弁当持帰り方式に決定いたしました。早くコロナ禍が終焉し、皆様で食事をとれることを願ひます。2点目は延期になっているバスハイクの日程についてです。11/13開催予定でしたバスハイクは6/18(日)に開催いたします。親善・クラブ親睦委員会の皆様には又お世話になります。宜しくお願ひ致します。③地区より毎年恒例の「書き損じはがき」送付依頼が来ております。うっかり書き損じしてしまったはがき、使っていない切手、商品券、プリペイトカードがございましたら例会場にお持ちください。集まった切手類はアフガニスタン、ネパール、カンボジア、ミャンマーの子供たちへ「ユネスコ世界寺子屋運動」として寄付されます。詳細は回覧板で回しております。ご協力の程宜しくお願ひ致します。④本年度のIMは2/26(日)にライブプラザマリオにてリアル開催方式で開催されます。ご案内は追って致します。ご参加の程よりしくお願ひいたします。

◆クラブフォーラム・会員卓話

●吉越潔君＝皆さん、こんにちは、一昨年入会させて頂きいただきました吉越潔でございます。

入会してすぐコロナ自粛の中でしたので、つい最近までロータリーのお昼はお弁当だとずっと思っておりました。早くぬのはんさんのおいしいお昼が食べられますよという風に願っております。

まず、自己紹介ですが私は1961年10月諏訪市に生まれまして、諏訪市で過ごして参りました。勤務先はNIPトヨタ信州、常務執行役員、営業本部長をしております。家族は妻と二人暮らしで趣味はゴルフと旅に出ることです。

次に会社の紹介をさせていただきます。NIPトヨタ信州はトヨタカラー南信とネットトヨタ信州が統合してできた新しい会社となります。社名のNIPとはNice to People 人に素敵をという意味を持っております。これはお客様とともに地域の一員としてその発展に寄与する、また、社員とその数の幸せを実現していくという経営理念から来ております。ピープルはお客様であり、地域社会であり、社員とその家族を指しております。

次に自動車におけるカーボンニュートラルについて、お話をさせていただきます。電気自動車のF1フォーミュラEはカーボンニュートラルの時代の象徴的なものかと思ひます。バッテ



リーEV メインの電動化を推進する諸外国が微増か微減といったレベルなのに対し、日本は 23%という圧倒的な削減幅を達成しております。ハイブリッドを軸に電動化を進め、脱炭素に取り組んできた日本の正当性を示しているデータです。エネルギーを「つくる」「はこぶ」「つかう」すべての産業が参加して、初めて地球にとっていい結果をもたらすと理解しています。「敵は炭素」内燃機関が敵ではないと TMC 豊田社長が常々発信している背景がここに表れております。

カリフォルニア州の規制では、2035 年に内燃機関が販売禁止、全米でも 2030 年に半分を BEV にすることになっていますが、現実には難しいと思われます。米国の場合は、ほとんどの人が複数台保有。そのすべてが BEV になる時期はまったく見通せない。ただし持っているクルマの内、1 台が BEV になるのは非常に現実的であるかもしれません。

先週開催の東京オートサロンでは水素エンジンとバッテリーEV に積み替えたレビンとトレノを出品しましたが、保有車に対する一つの対応策としての提案かと思えます。

こちらは国別の動力別の電動化目標ですヨーロッパが FCV EV に特化しているのがわかると思います。

それに対し 米国・日本は全方位で進むのが見ておれると思います。現在日本では自動車関連産業に従事する人々が 550 万人 将来はGXやDXにより新たな雇用を創出し1,000 万人の方がモビリティと呼ばれる産業に従事されると予測されておりますが、BEV 一択で進めると逆に減少せざるを得ない状況も想定されます。

自工会の豊田会長は「カーボンニュートラルに選択肢を」と、風力や水力など自然エネルギーで電力をまかなえる国はともかく、火力発電が現状で 7 割を占める日本において、バッテリーEV 一択はカーボンニュートラルの解決策にはなり得ない。内燃機関やハイブリッド、水素や合成燃料、そしてもちろんバッテリーEV も含め、あらゆる選択肢を揃えて適材適所で活用することが最適解であり、これこそ 550 万人が従事する日本の自動車産業を守ることにも繋がる…と再三にわたって訴えてきました。しかも海外勢はこの“バッテリーEV 前提の電動化”という大転換に乗じて、日本からモビリティの覇権を奪おうと画策しているフシすらあります。自動車産業は日本の基幹産業だから、それを許してしまえば日本という国の没落に繋がる…と、自工会は強い危機感を持っております。

日本国内においても政府内の共通認識が「バッテリーEV 一択では難しい」という論調になりつつあります。2035 年までに乗用車の新車販売で電動車 100%との方向から、多様性をしっかりと骨格にしていくという方向へ舵を切っております。車両の購入や充電、水素インフラの整備、蓄電池の製造、重要サプライヤーの業態転換などへ補正予算を組み。水素や合成燃料などの開発も大変重要と発信しております。日本政府は 2021 年の菅内閣時代に“2035 年に乗用車の 100%電動化、純ガソリン車の新車販売禁止”を掲げているが、昨年岸田首相は数回に渡り「自動車のカーボンニュートラル実現には選択肢が重要」と言及しており、グリーンイノベーション基金を活用した次世代電池やモーター、水素、合成燃料の開発推進も表明しております。

カーボンニュートラルの進め方に於いて世界的に EV 一本足打法から少々論調が変わりつつあります。

特に近年中国ではコロナにおける政府政策によりサプライチ

ェーンの断線 また強権的指導者による市場の不安定化、アメリカとの関係不安定化によるリスクが高まっております。VW のディーゼルの排ガス不正により EV へ舵を切ったヨーロッパの自動車メーカーではありましたが、このような世界経済の状況により EV を主体にカーボンニュートラルを進めているヨーロッパでの論調も変わりつつあります。BMW のオリバー ツィプセ CEO は EU で内燃機関のスイッチを切めることは間違いであり、電動化 (BEV) 一本に絞ることは危険「電動化だけが未来ではない」と、またボルボからの発信では、電気自動車の製造時には「ガソリン車の 1.7 倍の CO2 を排出」していた！ボルボの試算だと、EV がガソリン車よりもエコになるには、約 11 万キロも走らねばならない。と発信され、このような発言のような EV 否定は株価にまで影響を及ぼすほどでしたが、経済安全保障や電力インフラの伴わない地域の切り捨てとなるような EV に絞った将来の方向性に変化が表れているのではないかと思います。但し欧米では環境保護団体や緑の党などの発信力が強く、政府の政策に大きな影響を与えており、方向性に柔軟性を入れるのは簡単ではありません。カーボンニュートラルは実現すべき人類の課題ではありますが、その実現にはもっと多様性を持った取り組みが必要ではないでしょうか。本日はご清聴ありがとうございました。

◆今後の例会日程

1/27(金)	クラブフォーラム (年頭所感)
2/3(金)	クラブフォーラム (職業奉仕月間)
2/10(金)	準法定休日
2/17(金)	クラブフォーラム (平和と紛争予防/紛争解決月間)